

村川市兵方へ遣ス書状之写

尚々去々年村川大分之損被仕由候
間、大屋渡海壺番用捨来ル丑ノ

番より大屋殿御渡し可然候半哉、能様

御相談可被成候、以上

大屋九右方被罷越候間、一筆

令啓上候、夏中御越候へ共何之

御馳走も不申、今更御残多存候

道中無異儀御越、弥御在

宅候哉、無心元候、此表別条無之

旦那一紋無事、拙者躰も無

恙候間可安御心候、然^者竹嶋

近所之小島へ小船渡海之儀

去年貴様被仰候へ、大屋九右衛門

方ハ同心無之候間、貴様計にて

可遣哉と被申候間、其節我等

申候ハ当分同心無之ても定^而

所務も有之候、大屋も^与渡度

被申にて可有之候、口上^ニてハ無

同心と申分ハ実儀共不被存候

其内ハ貴様計御渡し可被成哉と

申置候、今度九右衛門殿被参被申候ハ

市兵衛同意^ニ小船渡海仕

度旨候、拙者挨拶仕候ハ尤

左様可有之と存候、然共去々

年村川大分之損仕由候、因茲

先来年も村川船遣し、大屋

渡番来ル丑寅両年より

九右方渡し、夫より如例兩人^ニて

順々^ニ御渡し可然候、彼島草

木も無御座少之所別之所務

無之、みち油取申一種之由候

於然^者互事六ヶ敷無之様御談

合可被成候、恐惶謹言

右之通村川市兵方へ申遣候

為念案書懸御目候、以上

龜山庄左衛門

九月八日

□□（花押）

大屋道喜様